

アジアにおける天然ガスの役割と課題

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

11 月 6-8 日、中国・上海を訪問し、中国の国有石油会社、CNPC、SINOPEC、CNOOC の関係者や、日韓印などアジア主要国の専門家等と、アジアの天然ガス市場の将来展望と課題に関して意見交換する機会を得た。関係者との議論の中で、共通に指摘されたのが、今後、アジアにおいては天然ガスの重要性が一層高まり、エネルギーミックスの中で大きな役割を果たしていくことへの期待であった。

弊所が 11 月 5 日に発表したばかりの「アジア／世界エネルギーアウトルック 2012」によれば、現状の趨勢が継続するレファレンスケースにおいてアジアの天然ガス需要は 2010 年の 4.48 億石油換算トン（5000 億立米）から、年平均 4.3%で増加、2035 年には 12.84 億トン（1.43 兆立米）まで大幅に増加する見通しである。この間の、アジアにおける天然ガス需要の増加分は、世界全体の 48%に相当し、まさに、エネルギー全体像と同様に、アジアにおける需要増が世界のガス需要を牽引する姿となっている。また、アジアにおける天然ガスの一次エネルギー全体に占めるシェアは、2010 年の 11%から 17%まで増加、着実に一次エネルギー全体における重要性を高めることが予想されるのである。

天然ガス全体の需要増の中でも、とりわけ高い成長が期待されるのは LNG である。前述の弊所の「アウトルック」においては、アジアの LNG 需要は 2010 年の 1.33 億トンから、2035 年には 3.22 億トンまで増加する見通しである。2010 年でも、アジアの LNG 需要が世界全体に占めるシェアは 60%と、アジアが世界の LNG 市場の中心であるが、予想される増大によって、アジアのシェアは 69%まで高まる。アジアの LNG 需要の拡大が世界の LNG 市場動向を左右する、とあって良い。

中国をはじめとするアジアの専門家との意見交換では、それぞれの国の事情・状況に応じた、自国の天然ガス・LNG 需要見通しなども示された。その数値・予測には、当然のことながら、様々な差異があり、エネ研の見通しと全く同一、という事は無い。しかし、クリーン性、非在来型ガスも含めた豊富な資源量、供給安定性等の多くのメリットを有するガス需要拡大への期待が非常に高いことは、様々な見解の中で共通であった。

同時に、各国におけるガス需要拡大への期待の背景には、それぞれの事情・エネルギー

市場全体での課題等の問題もあることが意見交換を通じて再認識できた。日本の場合は、言うまでもないが、福島事故後、原子力発電の低下によって、実際に天然ガス・LNG 需要が大幅に拡大する、という「事実」を踏まえ、かつ将来の原子力の位置づけが不透明なところから、実現性が高い有効なオプションとしてのガスへの期待が高まっている。韓国・及び台湾では、若干事情が異なるが、やはり原子力との関係は重要である。現時点では、両者ともに原子力が重要なエネルギー源としての役割を果たしているが、将来については、福島事故後の国内における原子力への逆風によって、エネルギーミックス再検討が必要となっている。その過程においては、やはり将来的には天然ガス、そして LNG への期待は大きい、という状況であろう。中国の場合は、過度に偏った石炭依存の発電構成からの脱却、2020 年に向けた GDP 単位当たりの GHG 排出原単位削減目標達成他のための有意な低炭素電源導入の必要性、国内に豊富に存在する非在来型ガス資源有効活用の必要性、等の事情から、やはりガスへの期待が大きく上昇している。しかし、ここでも、やはり原子力発電との関係に筆者は注目している。

10 月 24 日、中国政府は、原子力発電に関して「原子力発電安全計画」および「原子力発電中長期発展計画」の二つの重要な政策文書を発表した。福島事故の教訓も踏まえ、より一層の安全性確保を図りつつ、中国の原子力発電発展を進めるための基本方針が示されたが、注目されるのは、特にこれから着工する新設の原子力発電所建設に関しては、建設のペースを秩序よく着実に進める、という考えが示され、かつその中で、内陸部の原子力発電所新設は当面行わない方針が示されたことである。安全対策を強化して着実に原子力発電を進めていくことが最も大事であることは言を俟たないが、この方針の結果、当初想定していたより原子力発電が下方修正される場合、その代替電源はどうなるか、という問題がある。もちろん、省エネのさらなる強化、再生可能エネルギー促進も行われようが、やはりこの面で天然ガスへの期待がより高まる面は否めないのではないか。

こうした、天然ガス・LNG への高い期待と裏腹に、意見交換においては、現状のアジアにおける天然ガス・LNG 市場における様々な課題が指摘された。その中で、最も中心的な話題となったのは、天然ガス・LNG の価格競争力をより一層高める必要があること、そしてそのコンテキストにおける LNG のアジアプレミアム問題への対応の重要性である。アジアの関係者の中において、これほど、上記問題への関心が高いことに筆者は非常に強い印象を覚えた。ガスへの期待の大きさと課題の重要性の両方がもたらしている現象・状況であると思われるが、今後、アジアのガス問題への取り組みは、アジアの共通課題として一層重要性を増すことは必至であろう。アジアプレミアム問題に関しては、アジア各国での取り組みが重要であると共に、共通の問題として、今後もアジアの中で連携を強化していく必要があるとの声も極めて多くの関係者から聞かれたところである。この問題について、LNG 産消国会議を開催し、問題意識を高めてきた日本としても、どのようにアジア連携を考えるべきか、これから先の戦略が問われていくことになるだろう。

以上